「いのちをまもる智恵」の展示に寄せて

災害が帰島しています。命の大切さ、人と人との尊未大切に生活してい きたいものでき、たか、世の中を見ます。とこちずは、人と人とのつ ながりは希側になり、かけが久のない命が得んしられているようにた思 はいます。そんかるテン、実践に置かれた自動に思いを聴き、収別地で開め 選回られ、大切にされてきたを別に非を情かるべきではないでしょうか。 の、実践から見った代きべな問題とある。文スでは当なこささいた。 別が他に別国にことからのではなく、それをこうした思示を書せいた。 歌いを地に別国にことからのではなく、それをこうした思示を思いて がませない。 人としてのか着かとようからです。

> 渥美公秀 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授、 上町台地からまちを考える会理事)

脚算 この展示は、(いのちをまもる智恵 減災に終りの限員)の制作に関わられた全面 のみ在さま、上町台地の災害史に関わる貴重な資料や情報をご提供くださった地域 のみ在さま、ストーリーブックの設備にご協力くださっているみなさまはか、多くの で実施によって実現している本のです。かからネ州。日上げまま。

協力(資料提供等):「いのちをまもる智恵」制作委員会(事務局:(特活)レスキューストックヤード)、上前台地からますを考える会、歴典院、大坂地大守閣、大阪市立中央図書館からほり供来部、原英上町1961、高津宮、葱(クーデリー・カフェ、BooksaCafe L DUV

U-CoRo独案内 (ゆーころ・ひとりあんない) vol.03

NEXT21/U-00Ro ウィンドウ・エキジビション 03 「いのちをまもる智恵」を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害史」 (2007.9.3~12.28) 大阪市天干央で護士公前6~16 NF XT21 1 離北 U-CoRo

発行日 2007年9月3日

E 園 U-COHOプロジェクト・ツーキング(おぼ干等/ 橋本道/早川厚志/塩本油香料名 修 [Lのちを求もる智恵]制作を責合(無局氏:(独元)レスキューストックヤー 議論力 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

発 行 大阪ガス(株)エネルギー・文化研 大阪市中央区平野町4丁目1番2号

この冊子、企画内容に関するお問合せ先 TEL:06-6205-3518(担当:弘本) #NEXT2103863 Hは伊戸フロアとなっておりますので、かち入りはご連携ください。

表紙:「いのちをまもる智恵 減災に誘む30の風景」より 独案内(ひとりあんない) = まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと この冊子は環境に優しい北木林紙竹パルブ的が及び無貨券達点パルデ40%を使用しています。



ゆーころ・ひとりあんない

U-CoRo独案内

NEXT21/LLCoRo ウィンドウ・エキジビション 03

「いのちをまもる智恵」を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害壊 **2007.9.3**Mon-12.28Fii



ごあいさつ

近未来の住まいと暮らしを探求する。大阪ガス実験集合住宅NEXT21。エネルギー・環境に関わる実験に加え、今春から まちと暮らしをつなぐ小さな試みを始めました。1 階に設けた「U - CoRo(ゆーころ)」の数をインターフェイスに、上町台 地につながり、豊かな暮らしを育むきっかけづくりとしての、ウィンドウ・エキジビションです。第 1 弾では「上町台地まつ り絵巻 1を、第 2 弾では「上町台地 子どもと遊びいま・むかし」をテーマにディスプレイを展開してまいりました。

総名等3弾が「いのちをまも名智恵」を伝える。減災に無む30の風景と上町台鹿児来旦」です。合国の被災地に蓄積されて いる"いのちをまも名智恵"を丹念に集め、結ぎ上げたストーリーブァク「いのちをまも名智恵・減災に挑む300風景」。そこ に描かれた風景と智恵の紹介を中心に、上町台鹿災害史も振り返る展示です。ひとりひとりの"いのち"と暮らした地域の関 係を見つめ直す契機としていただければ幸いです。なお、この世子は、展示内容の一部を再編集してご紹介しているもので ・、暮らしの市面でごだ用ください。

> 主催:大阪ガス エネルギー・文化研究所(CEL) 共催:大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 企画:U-CoRoプロジェクト・ワーキング 監修:「いのちをまもる智恵|制作委員会(事態)・(契称)・スキューストックヤード)

大阪・上町台地の災害史を記録した参考文献と、減災のための地域防災関連情報など

●大阪・上町付款の災害空 「最低本省大阪守職に「大阪市職(1934) 「大阪市周本者忠大阪市職(1935) 「大阪市の歴史」大阪市東(1935) 「大阪市の歴史」大阪市実際書書編(創元社 1999) 「大阪市の歴史」大阪市実際書書編(創元社 1999)

●上町台地の防災開連情報
・中央区の防災・防犯情報(防災マップ等にリンク)
http://www.city.osaka.jp/chuo/life/bosal/index.html
・天士号区の防災・防犯情報(防災マップ等にリンク)
http://www.city.osaka.jp/chunoi/i/hemp//bousal/index.html など

 大阪市の防災間運情報・ 大阪市危機管理室の防災情報(日頃からの備え、風水害に備えて、地震に備えてなど) http://www.citv.osaka.in/kikikanrishitsu/bausai/index.html

「選載所などあなたの"地域の財気マップ(的製活動風点情報)」、「"水害に備えて 防災マップ(漫水知定区域図)」、「災害初定(業度分布・液状化予測)」など ・大阪市都市環境保険機能が減、注意唯・養領等の発令状況などを提供) http://www.city.ogsak.pl/gmp/

・防災・教急 いざというときには(119番の利用方法、救急医療サービスなど) http://www.city.osaka.jp/emergency/disasters/index.html 大阪市立即停野成敗とシターでの影響を繋ぎ習情報 http://www.abeno-bosaj-c.city.osaka.jp/bousaj/bsw/a/a/bswaa010.aspx

http://www.sumai.city.osaka.jp/subpage.php?p=8683 など



いのちをまもる智恵

減災に挑む30の風景

伝えられる言葉を学ぶ 風景に智恵を宿す 日頃より苦楽を共にする 愛される景色を築く ただそばで耳を傾ける 資源を発掘してつなげる 様々な目線に立つ

覚悟を決めて生きる

記録し検証する

大きなスケ -ルで考える

- そばにあるものを使う 地域の特性にあわせる 自然に逆らわず受け流す 歴史をたぐる
- 15 互いに息を合わせる 非常時に向けた日常 向けた日常を楽しむ 18 学びを地域に活かす の場をよく知る 地域へひらく

THE WAY

- みんなで持ちよる 100年先を担う 22 災わいと共にある恵みに寄り添う 故郷の美しさを知る 25 堂の力を信じる
- 自分の身は自分で守る 手をさしのべる あらゆる方法で防ぐ 28

- この事業は、日本全国で変重なって起こる災害の中で培われた智恵を多くの方々と共有したいという型い を出発気に始まりました。各地へ出向さ人々が謳る災害の体験に丹念に耳を傾けて集められた智恵は全部 で30にも上りますが、そこで謳られていたのは小手尖の"技術"でも、すぐに使える"指模"でもなく、まさに 人がいかに生るるかという"智郎"そのものです。
- 人がいかに信息をおという"智能"そのものです。 を形を分ける同様で興発された様々を容数を次の"いのちをまもるべく信かすには、一人でも多くの人 の手で未来・動がれる事が大切な事です。しかし農産機管をよいる形だけで出来すがあれてしまった。 で、人やがその時に急にた影響を作る体気、変を似てからしかなどこめにすったりをはあるでしまう。 のではないでしょうか。「節見しいうたったまででくくられてしまう事で、もまりもらくそうの物語 のではないでしょうか。「節見しいうたったままででくくられてしまう事で、もまりもらくそうの物語 のからかたときるが響してはたった事となりをできまった。 としからからないました。 としたのからないました。 としたのからないました。 として特定の地域がけではなく、患もがまよくも多常とのよりというという にて楽見し、水の場合がの時間に行なられる言葉を少れる。 との表しないまないまない。 とことで選ぶるが動物に行なるが悪を未ないと話げではなく、患もがまよく意か感じないます。 とことで選ぶるが動物に行なるが悪を未ないと話げではくメンセーンを含むせています。 ことで選ぶるが動かれているが悪を未ないと話げではくメンセーンを含むせています。 ことで選ぶるも動かれているが悪を未ないと話げてはくメンセーンを含むせています。
- ここにはてくるデキブクターは英語をもども極端されているものも、完全にフインジョンのものもありま ナただ大切なのは特勝の中で交ともれた会話が事実がかどうかではなく、その場で人が何を感じて、そこ に現れた展示から何を学ぶのかということだと考えています。 今までは情報を枝葉だけで語られてた「原見」の二文本、この"失わい"という文字と"抜で"という文字の 間に隠れてしまった風景を描く事で、ほじめていのちをまる名物窓"として未来へ勢がれて行くのではな

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター デザイナー 花村周寛

記録し検証する

09 災害を克明に記録し、検証し ていくこと。そこから見える 様々な問題点を教訓として次 に活かす。自然の持つ平穏時 の恩恵と災害時の猛威の両面の中でどのよう に折り合いをつけていくかが問われている。 いくらハードを強固にしたとしても自然の力 を完全に抑え込む事が出来ないことは、過去 の歴史が証明している。その中で自然と共存し 川の恵みを受けながらいかに被害を最小限に 留めていくか。征服から共生へ。近年、国も「あ ふれる川」を前提として遊水地や二線堤など





の「柔」の治水対策も考え始めている。



手をさしのべる

27 津波から命を守る最良の方 法といわれる「高端移転」は、 時の行政によって勧められ が、土砂災害などの新た

な問題も出てきている。災害後の復旧・復興の 方法も多面的に考えるべき事を示唆している。 近年の国内外の災害からの復興の過程にも見 られる「コミュニティービジネス」を70年前に 三陸の小さな漁村で行われていた事は、智恵で ある。ワカメを使った地場産業を他の地域の人 の力を借りながら興していく事で集落が活気 付いていく。現代にも通じる「復興」のひとつの あり方であると思われる。

田麦山

ずっと語り継ぐ

田野畑

紙芝居の中には様々な教訓を見つける事がで きる。津波体験者であるおじいさんが、日頃から津波の恐ろしさを子、孫の世代に、そして新 住民に伝えていた事。過去の体験、言い伝えを

そのまま鵜呑みにせずに検証の必要がある事。紙芝居という形で子 供たちに分かりやすく伝えようとしたヨシさんなりの防災教育。そ の他、救援隊が海から船でやってきた事など古老の語りの中に現代 にも通用する智恵がたくさん詰まっている。

とも通知するものがない。 そして何よりもおじいさんからヨシさんへ、ヨシさんから孫たちへ と自らの体験を次世代に語り継いでいく事。その実体験から出てく る言葉の響きは力を持っている。過去の津波体験者が高齢化し、災 害が人々の記憶の中から風化しつつある中、「伝承」のもつ防災力 減災力にも注目すべきである。

28 29

津波が押し寄せて来たらだれかれ構わ 津液が押し寄せて米だらだれがよいなり すとにかく逃げる。一人でも助かる事。 自分の命は自分で守る。そうしなければ 一族の血が絶えることにもなる。それが津 波てんでんこ」の真意である。(当然、災

害時要接護者の問題は別に考えなけれ

過去の苦い経験から出てきた「津波てん

でんこ」という言い伝えを日頃から家庭

や地域で次世代に語り継いでいく。生き 証人の「伝承」を記録し、 検証し、避難訓練や防災

自分の身は自分で守る

ばならない。

みんなで持ちよる

21 川の景観を大事にす るために「畳」という どこの家庭にもある 日常的なものを持ち 寄って住民ひとりひとりの力で町を守 るという発想は注目に値する。大き 強固な堤防(ハード)があることで起き てくる油断や安心(ソフト)。敢えて畳 堤を選択するという事は、地域住民にとっ て常に防災という事を意識せざるを得 ない。それが川と生きるという事では ないか。このまま畳堤が使われない事 をただ祈るばかりである。



典图



木沢



20

二多

13

麻魚



03

綾里





教育に生かしていく。実

体験からつむぎ出され



ただそばで耳を傾ける

22

震災に遭った事で自分の僧侶として の役割、地域の「寺」、仏教の意味を問 う。人、物、情報などが集まる場とし ての寺本来の役割が機能すれば災害

23

時には拠点に成り得る。全国無数に あると言われる空き寺、廃寺の活かし方や地域と乖離し つつある寺のあり方を災害は我々に問いかけているの かも知れない。人は、いつでも被災者、職がい者になりう る。そしてやがて老いる。だからこそ被災地、神戸から学 ばなければいけない。

自分の事としてかかわり続け、自分が変わり続け、語り つなげていく事が減災の第一歩ではないだろうか。

歴史をたぐる

神戸

本来、地域の要になるべき寺や神社 という「場」を使って(まさに寺子屋 である)地域の人々が主体になっ そこの歴史を学ぶ中から「歴史散策

マップを作った。実は、これはハザー

であり、過去の災害の中での智恵や危険エリフ などを自らが知り、共有する事でこれから起こりうる災 害に備えて防災意識の喚起を促している。 「いのちの絆・歴史の絆・地域の絆」という言葉をキーワ

ドにして、人と自然、先人達の智恵や歴史、そして今を共 に生きる地域の人々との「絆」を振り起こし、考え直す事 を教えてくれている。郷土学である。

15



崇和田

学びを地域に活かす

耐震化の第一歩である耐震 診断。専門家ではない学生が、 勉強のために「耐震診断ボラ ンティア」を行う事で、遅々 として進まなかった耐震化

が促進された。また、生徒にとっては学んだ事 が活かされる事を感じるまたとない機会であり 地域にとっても耐震について学び、防災力を向上させるいい機会である。高校生の耐震診断と

いう事をきっかけに学校と地域がつながって いく素晴らしい取り組みの事例である。